

障害者権利条約の絵本

「学校図書にしたい」

国連障害者権利条約の理念を絵本で紹介した「えほん障害者権利条約」(汐文社 1620円)が反響を呼んでいる。5月に発売され、すでに4刷まで増刷。全国の自治体からも学校図書にしたい」と購入申し込みが続いている。自らも全盲の視覚障害者で作者の藤井克徳さん(66)は「障害者同士で『素晴らしい条約だ』と喜ぶだけでなく、健常者にこそ条約の意義が伝われば」と願う。「天影子」

書籍紹介

えほん障害者権利条約

ふじい かつのり作
里 圭(さと けい)絵

出版社：汐文社
定 価：1,500円+税



理念と意義が分かりやすく

全国自治体から反響



藤井克徳さん

国連障害者権利条約 不十分な福祉などにより、障害者が社会生活を営む困難(障壁)の解消を目指し、「健常者」他者平等に、障害者の地域生活や意思決定、教育・労働、政治参加、移動の自由などを保障し、批准国にそのための立法・行政措置を求めている。今年8月末現在で、17カ国・地域が批准

まで何度も足を運び、特別委員の審議を傍聴した。06年8月に特別委員で条約が仮採択された瞬間は、今もありありと覚えている。拍手、口笛、歓声で議場の空気が震えた。その光景は見えなくても圧倒された。

条約は2002年7月から国連の特別委員会で策定審議が始まり、06年12月の第61回総会で採択。翌07年3月に中米ジャマイカが最初に批准した。日本の批准は141番目の14年1月だった。

支援法で、障害者が重く支援が必要ならば福祉サービスの利用者負担が増える「応益負担」が始まり、障害者が強く反発していた。「障害者自ら策定過程に参加した条約」と、日本の実情に強烈な差を覚えた」と藤井さん。だからこそ、条約を広く知ってもらい、必要性を痛感したという。

福井分野の著作が数多い藤井さんだが、絵本を手がけたのは初めて。絵は「みんなが笑顔で集うイメージ」などと、知人の里圭さんに相談し制作してもらった。難しくなりがちな条約の理念や意義を分かりやすく紹介している。

都内の自治体のほか全国から購入申し込みが寄せられ、同社の他の絵本に比べ6〜7倍の売上行きとされている。「全然知らなかった障害者のことがよく分かった」「孫に贈りたい」など、読者の反響も絶えない。「条約を順守して障害者が暮らしやすい社会を築けば、子供や高齢者

など誰もが生きやすい世の中になるはず。その思いが、絵本にしたことで多くの人々に届いた」と藤井さんは語る。

毎日新聞 (2015年9月15日)

書籍紹介

書名：ぼくの命は言葉とともにある
出版社：致知出版社
著者：福島智
定価：1,728円(税込)



福島先生の言葉は、鼓動である。

福島智

9歳で失明、18歳で聴力も失った。ぼくが東大教授となり、考えてきたこと。 東大教授 福島智 米国TIME誌が選んだ「アジアの英雄」 福島智氏の初人生論 致知出版社

内容(「BOOK」データベースより)

18歳で光と音を失った著者は、絶望の淵からいかにして希望を見出したのか—米国 TIME 誌が選んだ「アジアの英雄」福島智氏初の人生論